

段ボールコンポスト

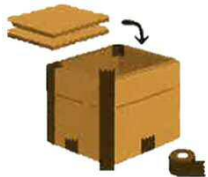
「段ボールコンポスト」とは、段ボールに土壌改良材を入れ、微生物の力で生ごみを分解して堆肥を作る、生ごみ処理容器です。
お手製のコンポストでも、ほとんどの生ごみは分解処理することができます。

<用意するもの>

- 段ボール (10kg入りのミカン箱など厚めの箱がよい)
- ガムテープ
- 新聞紙2日分または段ボール2枚 (底敷き用)
- 腐葉土10リットルと米ぬか1kg
- 木片またはレンガ、すのこなど (風通しを良くするための土台)
- 布とゴムひも (虫の侵入を防ぐためのふた)

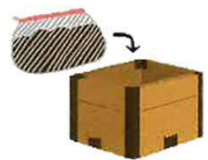
<あるとよいもの>

- もみ殻くん炭100g
- シャベルまたはしゃもじ
- 洗濯用ネット(目が細かく、毛布用など大きいサイズ)



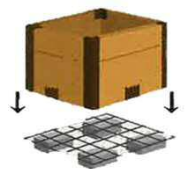
1

段ボール箱のふたを立て、四隅と底をガムテープで補強する。底には新聞紙2日分または段ボールを2枚敷く。



2

腐葉土と米ぬか(ともみ殻くん炭)を入れ、よく混ぜる。
(洗濯用ネットの中に入れると混ぜるのが楽です。)



3

箱の下に土台となるものを置き、床から3から5cm離して風通しよくする。
雨の当たらない通気性の良い場所に置く。



4

腐葉土と米ぬかをよく混ぜた中に、生ごみ(1日量の目安300g)を入れて混ぜる。



5

布とゴムひもでふたをして、完成。

* お手入れについて

- ・生ごみを入れない日も、1日1回は混ぜて、空気を入れましょう。
- ・生ごみの分解が進むと温度が上がります。分解が進まないときは、米ぬかや廃食油をコップ1杯程入れてよく混ぜてください。
魚のあら、炭水化物なども微生物の分解を促進させます。
- ・生ごみはできるだけ小さくして入れましょう。
- ・白くてふわふわしたカビは微生物の一種なので、よくかき混ぜて引き続き活用できます。

* 熟成について

数か月継続して生ごみを投入すると、しだいに塊が多くなり、べたついてかき混ぜにくくなります。そうしたら、生ごみの投入をやめ、熟成させて堆肥にしていきましょう。

- ①形が残っている生ごみが無くなるまで、時々水を入れながら、毎日混ぜる。
- ②その後は、週に2から3回かき混ぜる。
- ③水分がなくなり、さらさらになれば堆肥として使用する。

* 堆肥の活用

堆肥：土＝4：1 の分量で混ぜて、お使いください。